

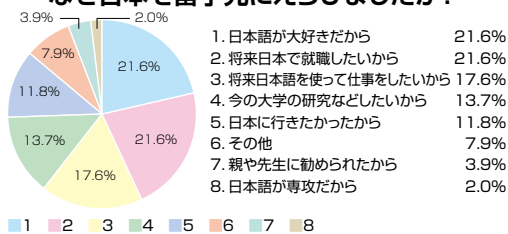
川崎市の留学生35人に聞きました。

『留学ってどう?』

川崎市には、多くの外国人留学生が学んだり生活したりしています。その中で、当協会の留学生修学奨励金を受給中の留学生がどんな夢や希望を持って来日したか、きっかけはどんなことだったか、大変なことはどんなことを尋ねてみました。

対象の留学生の内訳:35名(男性18名、女性17名)、10代~40代(うち20代が83%)、川崎市内の大学院、大学、専門学校在学者。ほとんどの学生が、来日後半年から1年。

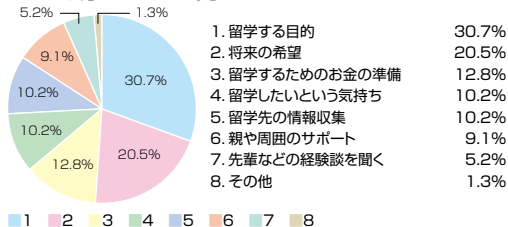
◆ 日本に留学することになったきっかけは? なぜ日本を留学先に選びましたか?



『将来の目標、夢は何ですか?』(日本語で記述していただきました。)

- より深く研究するため専門学校や大学院に進みたい (22.9%)
- 自分の会社やお店をつくり、経営すること (22.9%)
- 日本の会社に就職して、仕事をしたい (20.0%)
- 映画・音楽・ファッションなど感動を与える仕事をしたい (14.2%)
- 国と国の架け橋になり、世界に貢献したい (8.6%)
- 別の国に留学したい (5.7%)
- 母国に帰り、専門を生かせる仕事をしたい (5.7%)

◆ 留学するために、大切なことは何だと思いますか?



◆ アンケートの結果から

留学のきっかけが、「日本語が好きだから」「日本で就職したいから」など、日本との直接の関わりを求めて留学してくる、近隣諸国からの留学生が多いことを知り、あたたかい気持ちになりました。

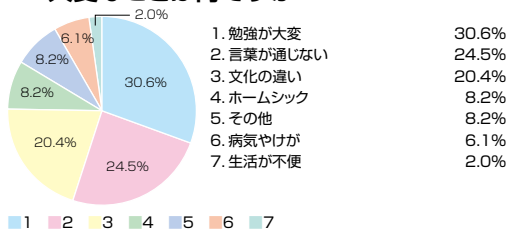
グラフを見ると、「日本での生活で大変なこと」が、言葉や文化の違いよりも、「勉強が大変」と答えた学生が最も多く、それだけ学業に一生懸命に取り組んでいることがわかりました。一方で、留学生たちは、「共に日本文化を学び、地域のボランティア活動に参加したい」と望んでいます。実際、川崎市国際交流協会主催のイベントや講座などでボランティア活動をしている学生も多いです。

アンケートを通して、外国からの留学生が日本語や日本の文化を学びながら、専門知識を身につけている様子がよくわかり、彼らが今後、母国と日本の絆を強め、これからの世界に貢献してくれることを確信しました。そして、彼らの希望や目的を理解し、日常生活での苦労や困難を知ったうえで、私たちができること、お手伝いできることを改めて考えたいと思いました。

言語や環境の違う国で、病気やけが、生活の心配もあり、ホームシックにかかるときもあるでしょう。留学経験や海外滞在経験がある方は共感するところも大きいのではないのでしょうか。毎日の生活の中でも、近くにいる留学生の皆さんの支えになれたらうれしいです。そして同様に、日本の若者たちも留学などを通じて世界にはばたいていってほしいと思いました。

(アンケート分析・文・グラフ作成 編集ボランティア:福地 直子・小島 俊彦)

◆ 日本での生活で大変なことは何ですか?



◆ 近所に住んでいる日本人と、どのような交流事業に参加したいですか?

